

# 山行報告書

神戸勤労者山岳会

1. 参加者 井谷、中原、大石、三浦、矢古宇、山本、入江、西、L松本

2. 山城/ルート

## ●比叡山

第1スラブルート（ノーマルIV）西・矢古宇、三浦・松本

第2スラブルート（ノーマルIV）井谷・山本・入江

ナックルスラブルート：大石・中原

## ●雌鉾岳

大長征ルート(美しいトラバースルート+大滝左ルート)：井谷・山本・三浦、西・矢古宇、入江・松本

サブマリンルート（下部）～大滝左ルート（上部）：大石・中原

3. 交通手段 車、フェリー

4. 行動記録

<入山日 2018年11月2日 下山日 2018年11月3日>

2018年11月2日 ●比叡山

11時頃 取付き 山頂 15:00～16:30 下山 18:00

2018年11月3日 ●雌鉾岳

7時頃 取付き 山頂 12:30～15:30 下山 18:00

5. 山行中の問題点・事故に繋がる要因

a) 予定のルート・日程で行動出来たか？

予定通りのルートでしたが一日目は取付きまで車移動に予想以上に時間が掛かった。工事により通行できる時間帯まで待たされた。

b) 事故に繋がりそうな要因（ヒヤリハット）が発生したか？

発生した場合、具体的に記す

ロングルートなため後半には疲労もあり動作が緩慢になった。

c) パーティーで、山行中の事故に繋がる要因につき、山行後検討したか？

①岩場の形状により声が聞き取りにくく、お互いの動作がわからない等あったため、練習等十分し、意思の疎通ができる手段が必要である。

②早く登らなければならない等の登り初めに焦りからお互いの確認不足があった。

③メーカーの違いからロープの長さの差があった。使用前にはロープの長さを把握しよう。50mないこともある。

④クライミングのスピードや確保支点づくり、ロープ捌き等随所の動作に関して、経験の差や練習不足がありパーティー間での速度の差が最大3時間あった。

⑤ロングルートでのセカンド確保時ビレイヤーは確保に気を取られ、ロープが絡まることに気が付かない。今回特にロープが絡まること、支点の少ない雌鉾岳では頻繁にあった。これを解くことに時間と体力を消耗した。丁寧なロープ捌きが必要である。

⑥自分自身が気付かずセルフを外してしまうことがある。1まずセルフビレイを確保。そしてビレイヤーの確保が確認されてからセルフビレイを外すことを徹底すること。（まず自分の身を守ること！）

⑦後半になるほど、動作が緩慢になり、確保、支点づくり等ミスがあった。(初期に気づいて修正した)

⑧私語は慎むこと。コールが聞こえない。

#### 6. その他、ルートに関する情報・気がついた事など記す

比叡山では最終終了点が不明だったため、第1スラブルート、第2スラブルートのメンバーは終了点でない山頂を目指してしまった。

明らかに支点もなく登った形跡も見られなかったため気づくべきだったがトポ図にはそこまでの記載はなかった。

報告者氏名 松本

2018年11月11日

